

(1) 調査概要

愛川町都市マスタープラン策定に係るアンケート調査は、町内に居住する20歳以上の町民1,500人を対象に、調査票を郵送により配布・回収を行いました。

○調査対象：愛川町に居住する20歳以上の町民1,500人を対象

○抽出法：住民基本台帳より無作為抽出

○調査方法：郵送による発送・回収

○調査期間：平成26年10月29日～11月13日

○回収数：588票

○回収率：39.2%

(2) 調査結果

①愛川町の居住環境に関する満足度

○満足度の高い項目は、「緑豊かな山々などの自然環境について」(1.495)、「中津川や相模川などの河川環境について」(0.853)、「ごみ、し尿施設の整備状況について」(0.480)、「下水道の整備状況について」(0.468)の順となっています。

○逆に満足度の低い項目は、「就職の機会について」(-1.242)、「娯楽施設について」(-1.202)、「公共交通（路線バス・循環バス）の利便性について」(-1.179)、「町営住宅の整備状況について」(-0.949)の順となっています。

○山や河川などの自然環境や下水道及び衛生施設に関する評価が高く、就業機会や公共交通、娯楽施設、医療施設の整備に関して評価が低くなっています。

○「買い物の利便性について」、「下水道の整備状況について」などの項目は、地区ごとの商業施設の立地状況や下水道の整備状況などによって、大きな差異が見られます。

※（ ）内の数値：満足度指数で、「満足」を2、「やや満足」を1、「やや不満」を-1、「不満」を-2として、この点を回答ごとの回答数に乘じ、その合計を回答者数で除した数値です。

■表Ⅱ-3-1 愛川町の満足度

項目	満足 ①	やや満足 ②	やや不満 ③	不満 ④	普通	わからない	①～④の 合計	全町
a 緑豊かな山々などの自然環境について	261	154	11	8	125	8	434	1.495
b 中津川や相模川などの河川環境について	111	174	44	25	191	19	354	0.853
c 街並みなどの市街地景観について	48	82	96	39	284	11	265	0.015
d 集落などの景観について	47	57	76	11	333	40	191	0.277
e 防犯対策について	22	40	114	50	284	47	226	-0.575
f 地震、台風などの災害対策（避難所・防災資機材等）について	19	54	101	45	269	76	219	-0.452
g 交通事故防止などの交通安全対策について	15	38	94	35	322	53	182	-0.527
h 騒音・振動防止などの公害対策について	24	54	87	54	285	56	219	-0.425
i 郷土としての親しみ、連帯感について	39	97	61	21	299	43	218	0.330
j 公共交通（路線バス・循環バス）の利便性について	15	37	154	190	147	22	396	-1.179
k 買い物の利便性について	44	73	146	89	210	3	352	-0.463
l 娯楽施設について	6	22	166	127	178	67	321	-1.202
m 就職の機会について	3	12	109	83	182	174	207	-1.242
n 道路の整備状況について	12	56	131	60	268	29	259	-0.660
o 町営住宅の整備状況について	4	13	49	33	170	292	99	-0.949
p 小・中学校などの教育施設の整備状況について	14	40	48	22	230	206	124	-0.194
q 下水道の整備状況について	55	69	42	24	280	92	190	0.468
r ごみ、し尿施設の整備状況について	47	91	45	21	301	55	204	0.480
s 公園・広場の整備状況について	37	102	70	28	276	50	237	0.211
t スポーツ施設の整備状況について	24	76	74	35	244	110	209	-0.096
u 図書館などの文化施設の整備状況について	33	62	104	37	251	77	236	-0.212
v 病院などの医療施設の整備状況について	24	68	147	60	239	24	299	-0.505
w 福祉施設の整備状況について	17	36	94	32	244	141	179	-0.492

1.000 以上	0.500 以上 1.000 未満	-1.000 以上 -0.500 未満	-1.000 以下
----------	----------------------	------------------------	-----------

※満足度指数算定式：〔①×2+②×1+③×(-1)+④×(-2)〕÷合計

■表Ⅱ-3-2 地区別の満足度指数

項目	半原	田代	角田	三増	中津・棚沢 ・八菅山	春日台	全町
a 緑豊かな山々などの自然環境について	1.402	1.432	1.455	1.350	1.521	1.449	1.495
b 中津川や相模川などの河川環境について	0.521	0.742	0.560	1.250	1.000	1.143	0.853
c 街並みなどの市街地景観について	0.146	0.056	-0.059	0.000	-0.090	0.379	0.015
d 集落などの景観について	0.436	0.643	0.250	1.400	0.102	0.316	0.277
e 防犯対策について	-0.538	-0.571	-0.375	-0.714	-0.681	-0.250	-0.575
f 地震、台風などの災害対策（避難所・防災資機材等）について	-0.891	-1.000	-0.786	0.375	-0.394	0.241	-0.452
g 交通事故防止などの交通安全対策について	-0.528	-0.667	-0.813	0.500	-0.616	-0.067	-0.527
h 騒音・振動防止などの公害対策について	-0.200	-0.231	-0.375	-0.167	-0.650	0.037	-0.425
i 郷土としての親しみ、連帯感について	0.400	0.556	0.700	0.154	0.250	0.115	0.330
j 公共交通（路線バス・循環バス）の利便性について	-1.311	-1.452	-1.111	-0.750	-1.186	-0.957	-1.179
k 買い物の利便性について	-1.171	-1.464	-0.417	-0.667	-0.183	0.214	-0.463
l 娯楽施設について	-1.354	-1.214	-1.250	-0.778	-1.208	-0.974	-1.202
m 就職の機会について	-1.519	-1.211	-1.375	-0.800	-1.138	-1.050	-1.242
n 道路の整備状況について	-0.689	-0.524	-0.760	-0.375	-0.726	-0.333	-0.660
o 町営住宅の整備状況について	-1.000	-0.889	-0.400	-1.000	-1.088	-0.333	-0.949
p 小・中学校などの教育施設の整備状況について	-0.632	-1.000	0.400	0.333	-0.123	-0.154	-0.194
q 下水道の整備状況について	0.447	0.333	-0.667	-0.375	0.773	0.947	0.468
r ごみ、し尿施設の整備状況について	0.265	0.769	-0.105	1.000	0.449	1.087	0.480
s 公園・広場の整備状況について	-0.087	0.421	0.200	0.375	0.203	0.516	0.211
t スポーツ施設の整備状況について	-0.575	0.000	0.545	0.000	-0.018	-0.077	-0.096
u 図書館などの文化施設の整備状況について	-0.667	-0.667	0.294	1.000	-0.107	-0.179	-0.212
v 病院などの医療施設の整備状況について	-0.863	-0.526	-0.222	0.600	-0.479	-0.613	-0.505
w 福祉施設の整備状況について	-0.821	0.091	0.273	0.714	-0.713	-0.125	-0.492

1.000 以上	0.500 以上 1.000 未満	-1.000 以上 -0.500 未満	-1.000 以下
----------	----------------------	------------------------	-----------

②今後のまちづくりについて

【魅力的なまちづくりのために必要な施設】

○「日常生活に必要な店舗・サービス施設」(15.9%)を筆頭に、「病院や診療所」(9.4%)、「老人福祉施設」(8.4%)など普段の生活に必要な施設が上位を占めています。「レストランや居酒屋などの飲食店」(4.8%)や「旅館・ホテルなどの宿泊施設」(2.0%)など、都会的な施設に対する需要はそれほど大きくありません。

○地区別に見ても、全ての地区で「日常生活に必要な店舗・サービス施設」が多く選択されています。

■表Ⅱ-3-3 必要な施設（全町）

(複数回答)

項目	回答数	比率
1 日常生活に必要な店舗・サービス施設	257	15.9%
2 レストランや居酒屋などの飲食店	78	4.8%
3 保育所など子育て支援施設	105	6.5%
4 デイサービスなどの介護事業所	96	5.9%
5 病院や診療所	152	9.4%
6 老人福祉施設	136	8.4%
7 大規模ショッピングセンターなど	116	7.1%
8 映画館などの娯楽施設	110	6.8%
9 旅館・ホテルなどの宿泊施設	32	2.0%
10 駐車場や駐輪場	34	2.1%
11 公園・広場などのオープンスペース	90	5.5%
12 利用しやすく整備されたバスセンター	94	5.8%
13 趣味や文化活動の場として利用できる公民館などの公共施設	101	6.2%
14 住民が広く利用できる体育館などの公共施設	75	4.6%
15 特にない	59	3.6%
16 その他	88	5.4%
合計（3項目を選択）	1,623	100.0%

10%～

■表Ⅱ-3-4 必要な施設（地区別比率）

(複数回答)

項目	半原	田代	角田	三増	中津・ 棚沢・ 八菅山	春日台
1 日常生活に必要な店舗・サービス施設	16.9%	27.4%	16.0%	21.6%	14.1%	13.7%
2 レストランや居酒屋などの飲食店	6.7%	9.2%	5.0%	8.3%	3.5%	3.8%
3 保育所など子育て支援施設	7.8%	4.6%	8.4%	11.7%	6.1%	6.5%
4 デイサービスなどの介護事業所	6.0%	1.8%	0.8%	1.7%	7.3%	6.0%
5 病院や診療所	8.4%	9.2%	4.2%	6.7%	10.4%	9.8%
6 老人福祉施設	7.8%	7.3%	8.4%	3.3%	8.5%	9.8%
7 大規模ショッピングセンターなど	5.7%	6.4%	5.9%	8.3%	7.7%	7.6%
8 映画館などの娯楽施設	5.7%	6.4%	6.7%	5.0%	7.6%	8.2%
9 旅館・ホテルなどの宿泊施設	1.3%	0.9%	5.0%	0.0%	2.1%	1.6%
10 駐車場や駐輪場	1.0%	0.9%	3.4%	0.0%	2.1%	3.8%
11 公園・広場などのオープンスペース	5.7%	2.8%	7.6%	6.7%	5.4%	5.4%
12 利用しやすく整備されたバスセンター	6.0%	2.8%	5.9%	1.7%	6.0%	6.5%
13 趣味や文化活動の場として利用できる公民館などの公共施設	6.0%	8.3%	5.9%	10.0%	6.3%	3.8%
14 住民が広く利用できる体育館などの公共施設	6.0%	3.7%	2.5%	6.7%	4.3%	4.9%
15 特にない	4.0%	2.8%	4.2%	5.0%	3.3%	4.3%
16 その他	5.0%	5.5%	10.1%	3.3%	5.3%	4.3%

10～20%

20%～

【今後の町の土地利用として優先すべきこと】

○今後、町の土地利用として優先すべきこととしては、「土地区画整理事業などにより良好な住宅地づくりを進める」（20.0%）、「保安林や自然環境保全地域等の指定により、山林の保全を図る」（13.6%）、「水辺環境の保全を図る」（11.8%）が上位を占めています。

○地区別に見ると、三増、中津・棚沢・八菅山、春日台の各地区では「土地区画整理事業などにより良好な住宅地づくりを進める」、田代地区では「水辺環境の保全を図る」、角田地区では「役場庁舎周辺の整備を進める」、半原地区では「保安林や自然環境保全地域等の指定により、山林の保全を図る」がそれぞれ上位を占めています。

■表Ⅱ-3-5 土地利用として優先すべきこと（全町）

項目	回答数	比率
1 既存の住宅地の再整備を進める	57	10.0%
2 土地区画整理事業などにより良好な住宅地づくりを進める	114	20.0%
3 ミニ開発の規制を強化する	43	7.6%
4 役場庁舎周辺の整備を進める	48	8.4%
5 農用地の保全を図る	34	6.0%
6 保安林や自然環境保全地域等の指定により、山林の保全を図る	78	13.6%
7 水辺環境の保全を図る	67	11.8%
8 工業用地の整備を進める	34	6.0%
9 公園の整備を進める	51	9.0%
10 その他	43	7.6%
合計	569	100.0%

10～20%

20%～

■表Ⅱ-3-6 土地利用として優先すべきこと（地区別比率）

項目	半原	田代	角田	三増	中津・棚沢・八菅山	春日台
1 既存の住宅地の再整備を進める	11.1%	12.8%	11.6%	9.1%	10.3%	4.4%
2 土地区画整理事業などにより良好な住宅地づくりを進める	13.0%	20.5%	20.9%	36.5%	20.2%	23.5%
3 ミニ開発の規制を強化する	7.4%	2.6%	0.0%	4.5%	8.9%	10.3%
4 役場庁舎周辺の整備を進める	3.7%	5.1%	27.9%	9.1%	6.5%	13.2%
5 農用地の保全を図る	5.6%	5.1%	7.0%	9.1%	5.8%	5.9%
6 保安林や自然環境保全地域等の指定により、山林の保全を図る	24.9%	17.9%	11.6%	4.5%	10.3%	10.3%
7 水辺環境の保全を図る	16.7%	23.1%	9.3%	4.5%	10.6%	5.9%
8 工業用地の整備を進める	1.9%	2.6%	2.3%	0.0%	8.6%	7.4%
9 公園の整備を進める	8.3%	7.7%	4.7%	9.1%	11.3%	8.8%
10 その他	7.4%	2.6%	4.7%	13.6%	7.5%	10.3%

10～20%

20～30%

30%～

【今後の農業の進め方について】

- 農業の今後については、「特産品を開発・育成する」(27.8%)が圧倒的に多く、次に「貸し農園や市民農園の展開を図る」(17.6%)、「産業としての農業はもとより、緑地保全の立場から農業の維持を図る」(12.3%)となっています。
- 地区別に見ると、三増地区以外の全地区で、「特産品を開発・育成する」の割合が最も高く、三増地区のみ「産業としての農業はもとより、緑地保全の立場から農業の維持を図る」が最も多く選択されています。

■表Ⅱ-3-7 今後の農業の進め方について（全町）

項目	回答数	比率
1 生産組織を育成し、農地の有効活用を図る	62	11.1%
2 特産品を開発・育成する	155	27.8%
3 農村の周辺環境を整える	27	4.8%
4 貸し農園や市民農園の展開を図る	98	17.6%
5 立地条件を活かして、観光農業の展開を図る	57	10.2%
6 住宅地化や後継者不足などの対策として、新規就農者を募集し育成を図る	64	11.4%
7 産業としての農業はもとより、緑地保全の立場から農業の維持を図る	69	12.3%
8 その他	27	4.8%
合計	559	100.0%

10～20%

20%～

■表Ⅱ-3-8 今後の農業の進め方について（地区別比率）

項目	半原	田代	角田	三増	中津・ 棚沢・ 八菅山	春日台
1 生産組織を育成し、農地の有効活用を図る	16.0%	10.3%	10.5%	20.0%	7.7%	15.6%
2 特産品を開発・育成する	25.5%	28.1%	34.2%	16.0%	28.4%	26.5%
3 農村の周辺環境を整える	3.8%	0.0%	2.6%	0.0%	6.7%	4.7%
4 貸し農園や市民農園の展開を図る	15.1%	20.5%	13.2%	16.0%	18.6%	18.8%
5 立地条件を活かして、観光農業の展開を図る	11.3%	7.7%	15.8%	12.0%	8.8%	12.5%
6 住宅地化や後継者不足などの対策として、新規就農者を募集し育成を図る	6.6%	15.4%	7.9%	8.0%	13.7%	10.9%
7 産業としての農業はもとより、緑地保全の立場から農業の維持を図る	17.0%	10.3%	13.2%	24.0%	11.2%	6.3%
8 その他	4.7%	7.7%	2.6%	4.0%	4.9%	4.7%

10～20%

20～30%

30%～

【工業について特に重要なこと】

- 工業については、「道路交通網の整備など企業が進出しやすい環境づくり」（27.4%）が最も多く、次に「労働力人口の確保」（13.7%）、「ハイテク（先端技術）産業の誘致」（9.9%）、「商品企画力やデザインの向上による地場産業の振興」（8.9%）が多くなっています。
- 地区別に見ると、角田以外の全ての地区で「道路交通網の整備など企業が進出しやすい環境づくり」が最も多くなっており、角田地区のみ「労働力人口の確保」が最も多く選択されています。県央愛川ハイテク研究所が位置する三増地区では、「ハイテク（先端技術）産業の誘致」の選択割合も高くなっています。

■表Ⅱ-3-9 工業について特に重要なこと（全町）

項目	回答数	比率
1 ハイテク（先端技術）産業の誘致	59	9.9%
2 新たな工業団地の整備	29	4.9%
3 労働力人口の確保	82	13.7%
4 中小企業の技術の高度化	35	5.9%
5 商品企画力やデザインの向上による地場産業の振興	53	8.9%
6 技術の発展に対応した人材の育成	47	7.9%
7 大学などの研究機関の誘致	45	7.5%
8 道路交通網の整備など企業が進出しやすい環境づくり	164	27.4%
9 環境に配慮した事業活動の推進（ISOの認証取得など）	48	8.0%
10 その他	35	5.9%
合計	597	100.0%

10～20%

20%～

■表Ⅱ-3-10 工業について特に重要なこと（地区別比率）

項目	半原	田代	角田	三増	中津・ 棚沢・ 八首山	春日台
1 ハイテク（先端技術）産業の誘致	7.4%	8.1%	10.9%	26.2%	9.0%	12.9%
2 新たな工業団地の整備	4.6%	2.7%	2.2%	4.3%	5.5%	5.7%
3 労働力人口の確保	13.0%	16.2%	19.7%	8.7%	13.9%	11.4%
4 中小企業の技術の高度化	8.3%	0.0%	4.3%	0.0%	5.8%	7.1%
5 商品企画力やデザインの向上による地場産業の振興	11.1%	10.8%	13.0%	4.3%	7.7%	7.1%
6 技術の発展に対応した人材の育成	8.3%	2.7%	4.3%	4.3%	9.0%	7.1%
7 大学などの研究機関の誘致	8.3%	5.4%	6.5%	8.7%	8.7%	2.9%
8 道路交通網の整備など企業が進出しやすい環境づくり	27.0%	29.8%	15.2%	34.9%	27.5%	34.4%
9 環境に配慮した事業活動の推進（ISOの認証取得など）	8.3%	18.9%	6.5%	4.3%	7.4%	7.1%
10 その他	3.7%	5.4%	17.4%	4.3%	5.5%	4.3%

10～20%

20～30%

30%～

【商業・観光について特に重要なこと】

○商業については、「にぎわいのある商業空間づくり」(14.8%)が最も多く、次に、「スーパーなどの大規模店舗の誘致推進」(13.0%)、「駐車場や街路灯などの環境整備」(8.7%)が多くなっています。

○観光については、「中津川の活用など自然を活かした観光地づくり」(19.6%)が最も多く、次に「宮ヶ瀬ダムを活用など都市近郊型の観光資源開発」(11.7%)、「文化財や観光資源を結ぶ観光ルートの整備」(9.7%)が多くなっています。

○地区別の商業について、半原、田代、角田の各地区では「スーパーなどの大規模店舗の誘致推進」が最も多く、次いで「にぎわいのある商業空間づくり」が多くなっています。(角田地区は「商店の共同化などによる商店街づくり」、「駐車場や街路灯などの環境整備」等も同割合)

また、三増、中津・棚沢・八菅山、春日台の各地区では「にぎわいのある商業空間づくり」が最も多く、次いで「スーパーなどの大規模店舗の誘致推進」が多くなっています。(三増地区は「商店の共同化などによる商店街づくり」、「駐車場や街路灯などの環境整備」等も同割合、春日台地区では「駐車場や街路灯などの環境整備」も同割合)

○地区別の観光について、角田地区、三増地区を除く各地区では「中津川の活用など自然を活かした観光地づくり」が最も多く、そのうち半原、田代、春日台の各地区では「宮ヶ瀬ダムを活用など都市近郊型の観光資源開発」が、中津・棚沢・八菅山地区では「文化財や観光資源を結ぶ観光ルートの整備」がこれに次いでいます。一方、角田地区では「文化財や観光資源を結ぶ観光ルートの整備」が最も多く、次いで「中津川の活用など自然を活かした観光地づくり」が多くなっており、三増地区では「宮ヶ瀬ダムを活用など都市近郊型の観光資源開発」が最も多く、次いで「文化財や観光資源を結ぶ観光ルートの整備」が多くなっています。

■表Ⅱ-3-11 商業・観光について特に重要なこと（全町）

項目	回答数	比率
1 商店の共同化などによる商店街づくり	46	7.6%
2 駐車場や街路灯などの環境整備	53	8.7%
3 スーパーなどの大規模店舗の誘致推進	79	13.0%
4 にぎわいのある商業空間づくり	90	14.8%
5 催し物などのイベントの活性化	36	5.9%
6 文化財や観光資源を結ぶ観光ルートの整備	59	9.7%
7 中津川の活用など自然を活かした観光地づくり	120	19.6%
8 宮ヶ瀬ダムを活用など都市近郊型の観光資源開発	71	11.7%
9 情報技術を活用した観光情報の発信	22	3.6%
10 その他	33	5.4%
合計（※複数回答したものを含む）	609	100.0%

10%～

■表Ⅱ-3-12 商業・観光について特に重要なこと（地区別比率）

項目	半原	田代	角田	三増	中津・ 棚沢・ 八菅山	春日台
1 商店の共同化などによる商店街づくり	3.6%	7.1%	6.7%	4.3%	8.6%	10.1%
2 駐車場や街路灯などの環境整備	5.4%	2.4%	6.7%	4.3%	10.5%	13.0%
3 スーパーなどの大規模店舗の誘致推進	12.6%	16.7%	8.9%	4.3%	14.0%	13.0%
4 にぎわいのある商業空間づくり	10.8%	14.3%	6.7%	21.8%	15.8%	20.4%
5 催し物などのイベントの活性化	6.3%	2.4%	6.7%	0.0%	7.0%	2.9%
6 文化財や観光資源を結ぶ観光ルートの整備	10.8%	7.1%	22.1%	13.0%	8.6%	5.8%
7 中津川の活用など自然を活かした観光地づくり	19.9%	28.6%	17.8%	8.7%	20.2%	16.0%
8 宮ヶ瀬ダムを活用など都市近郊型の観光資源開発	18.0%	9.5%	8.9%	34.9%	8.3%	13.0%
9 情報技術を活用した観光情報の発信	6.3%	2.4%	2.2%	8.7%	2.9%	2.9%
10 その他	6.3%	9.5%	13.3%	0.0%	4.1%	2.9%

10～20%

20～30%

30%～

③町の将来像としての都市イメージについて

○町の将来像としては、「緑あふれる自然環境に恵まれた都市」(19.1%)が最も多く、次に「自然環境と工業が調和した都市」(17.5%)、「福祉施設等が充実した都市」(15.5%)、「安全で快適な住宅を中心とした都市」(14.9%)が多くなっています。

○地区別に見ると、中津・棚沢・八菅山地区以外の全ての地区で「緑あふれる自然環境に恵まれた都市」が最も多く、半数を超える人が選択しています。このうち、半原地区では「自然環境と工業が調和した都市」及び「自然や歴史を活かした観光客の訪れる都市」が同割合で続き、田代地区では「福祉施設等が充実した都市」、角田地区では「自然環境と工業が調和した都市」、三増地区では「圏央道（さがみ縦貫道路）の開通に併せて流通産業が発達した都市」、春日台地区では「安全で快適な住宅を中心とした都市」がそれぞれ続いています。中津・棚沢・八菅山地区は「自然環境と工業が調和した都市」が最も多く、「緑あふれる自然環境に恵まれた都市」がこれに続いています。

■表Ⅱ-3-13 町の将来像としての都市イメージについて（全町）

（複数回答）

項目	回答数	比率
1 緑あふれる自然環境に恵まれた都市	270	19.1%
2 工業の発展した都市	23	1.6%
3 自然環境と工業が調和した都市	246	17.5%
4 圏央道（さがみ縦貫道路）の開通に併せて流通産業が発達した都市	144	10.2%
5 にぎわいある中心商業地が発展した都市	104	7.4%
6 自然や歴史を活かした観光客の訪れる都市	171	12.2%
7 安全で快適な住宅を中心とした都市	209	14.9%
8 福祉施設等が充実した都市	218	15.5%
9 その他	22	1.6%
合計（3項目を選択）	1,407	100.0%

10%～

■表Ⅱ-3-14 町の将来像としての都市イメージについて（地区別比率）

（複数回答）

項目	半原	田代	角田	三増	中津・棚沢・八菅山	春日台
1 緑あふれる自然環境に恵まれた都市	21.2%	21.0%	19.6%	23.6%	17.1%	22.1%
2 工業の発展した都市	0.8%	2.0%	1.8%	0.0%	1.9%	1.9%
3 自然環境と工業が調和した都市	17.5%	16.0%	18.8%	13.6%	18.5%	16.7%
4 圏央道（さがみ縦貫道路）の開通に併せて流通産業が発達した都市	7.2%	11.0%	9.8%	18.6%	10.7%	9.9%
5 にぎわいある中心商業地が発展した都市	8.0%	7.0%	8.9%	5.1%	7.8%	4.9%
6 自然や歴史を活かした観光客の訪れる都市	17.5%	12.0%	12.5%	11.9%	10.3%	11.1%
7 安全で快適な住宅を中心とした都市	12.7%	13.0%	16.1%	11.9%	15.3%	17.3%
8 福祉施設等が充実した都市	14.3%	17.0%	10.7%	15.3%	16.6%	13.6%
9 その他	0.8%	1.0%	1.8%	0.0%	1.8%	2.5%

10～20%

20%～

④より良いまちづくりを進める上で重要な方策について

○より良いまちづくりを進める上で重要な方策としては、「公共交通（路線バス・循環バス）を充実する」（11.8%）が最も多く、次に「病院などの医療施設を整備する」（7.9%）が多く選択されています。以下、「福祉施設を充実する」（6.6%）、「河川などの水辺を保全する」（6.4%）、「山の自然を保全する」（5.2%）の順で多く、「公共交通」、「医療福祉」、「自然環境保全」の関心度が高いことが窺えます。

○地区別に見ると、田代地区以外のすべての地区で「公共交通（路線バス・循環バス）を充実する」が最も多くなっており、三増地区では半数近くの人を選択しています。地区別の傾向に大きな差は認められませんが、「下水道を充実する」が角田地区、「生活関連道路を整備する」が三増地区、「病院などの医療施設を整備する」が中津・棚沢・八菅山地区及び春日台地区、「河川などの水辺を保全する」が田代地区、「山の自然を保全する」が半原地区で特に多く選択されています。

■表Ⅱ-3-15 より良いまちづくりを進める上での重要な方策について（全町）

（複数回答）

項目	回答数	比率
1 山の自然を保全する	86	5.2%
2 街中の緑を保全する	44	2.7%
3 河川などの水辺を保全する	106	6.4%
4 空気が汚れないように規制する	63	3.8%
5 幹線道路を整備する	42	2.5%
6 生活関連道路を整備する	66	4.0%
7 交通安全対策を充実する	27	1.6%
8 公共交通（路線バス・循環バス）を充実する	196	11.8%
9 農地を保全する	14	0.8%
10 農業基盤を充実する	13	0.8%
11 農村環境を充実する	10	0.6%
12 地場産業を育成する	42	2.5%
13 既存工場の拡張などを支援する	9	0.5%
14 製造業を中心とする工場を誘致する	68	4.1%
15 流通施設を誘致する	13	0.8%
16 企業（就業の場）を誘致する	83	5.0%
17 中心商店街を活性化する	67	4.1%
18 大型店舗を誘致する	72	4.4%
19 娯楽施設を多くする	44	2.7%
20 観光産業を育成する	51	3.1%
21 現在の住宅地を再整備する	16	1.0%
22 新しい住宅地を整備する	19	1.2%
23 教育施設を充実する	48	2.9%
24 下水道を充実する	20	1.2%
25 公園・広場を充実する	28	1.7%
26 スポーツ施設を充実する	23	1.4%
27 文化施設を充実する	21	1.3%
28 病院などの医療施設を整備する	130	7.9%
29 子育て支援を充実する	81	4.9%
30 家事の支援制度を充実する	19	1.2%
31 福祉施設を充実する	109	6.6%
32 その他	21	1.3%
合計（3項目選択）	1,651	100.0%

10%～

■表Ⅱ-3-16 より良いまちづくりを進める上での重要な方策について（地区別比率）

（複数回答）

項目	半原	田代	角田	三増	中津・ 棚沢・ 八菅山	春日台
1 山の自然を保全する	8.4%	6.6%	4.2%	2.9%	4.8%	2.6%
2 街中の緑を保全する	1.7%	4.1%	5.2%	1.4%	2.7%	2.1%
3 河川などの水辺を保全する	8.1%	12.5%	5.1%	5.8%	6.2%	4.7%
4 空気が汚れないように規制する	3.7%	1.7%	5.1%	5.9%	4.0%	3.1%
5 幹線道路を整備する	1.4%	4.1%	2.5%	2.9%	2.9%	1.0%
6 生活関連道路を整備する	4.4%	5.8%	5.9%	7.3%	3.6%	1.6%
7 交通安全対策を充実する	1.0%	0.0%	4.2%	1.4%	1.8%	1.6%
8 公共交通（路線バス・循環バス）を充実する	14.0%	9.1%	12.0%	14.6%	10.3%	15.2%
9 農地を保全する	1.4%	0.0%	0.8%	2.9%	0.8%	0.0%
10 農業基盤を充実する	0.0%	0.8%	0.8%	0.0%	0.9%	1.0%
11 農村環境を充実する	0.3%	0.8%	0.8%	0.0%	0.6%	1.0%
12 地場産業を育成する	3.0%	3.3%	5.1%	0.0%	2.5%	1.0%
13 既存工場の拡張などを支援する	0.7%	0.0%	0.8%	0.0%	0.5%	1.0%
14 製造業を中心とする工場を誘致する	4.4%	4.1%	4.2%	4.3%	4.2%	5.7%
15 流通施設を誘致する	0.3%	0.0%	0.0%	5.8%	0.7%	1.0%
16 企業（就業の場）を誘致する	6.4%	3.3%	3.4%	5.8%	4.8%	5.7%
17 中心商店街を活性化する	3.0%	5.8%	3.4%	2.9%	4.4%	3.1%
18 大型店舗を誘致する	5.7%	2.5%	1.7%	0.0%	4.8%	4.7%
19 娯楽施設を多くする	2.0%	3.3%	3.4%	1.4%	3.2%	1.0%
20 観光産業を育成する	3.7%	5.0%	2.5%	2.9%	2.6%	3.1%
21 現在の住宅地を再整備する	1.7%	0.8%	1.7%	1.4%	0.6%	1.0%
22 新しい住宅地を整備する	1.7%	0.8%	1.7%	2.9%	0.9%	0.0%
23 教育施設を充実する	1.4%	4.1%	2.5%	0.0%	3.3%	4.2%
24 下水道を充実する	0.3%	0.8%	6.9%	4.3%	0.7%	0.5%
25 公園・広場を充実する	1.4%	0.0%	0.0%	5.8%	2.0%	1.6%
26 スポーツ施設を充実する	2.0%	0.0%	0.8%	0.0%	1.5%	1.6%
27 文化施設を充実する	0.7%	1.7%	0.8%	0.0%	0.9%	4.2%
28 病院などの医療施設を整備する	7.1%	6.6%	5.2%	5.8%	8.4%	9.5%
29 子育て支援を充実する	3.7%	4.1%	2.5%	5.8%	5.6%	5.2%
30 家事の支援制度を充実する	0.3%	0.8%	1.7%	0.0%	1.3%	1.6%
31 福祉施設を充実する	5.1%	5.8%	5.1%	5.8%	7.2%	7.8%
32 その他	1.0%	1.7%	0.0%	0.0%	1.3%	2.6%

10%～

【充足していると考えられる方策について】

○充足していると考えられる方策は、「重要な方策」より選択割合が少なく、最も多い「病院などの医療施設を整備する」でも6.2%の回答者が選択しているに止まっています。以下、「山の自然を保全する」(5.8%)、「公園・広場を充実する」(5.7%)、「下水道を充実する」(5.6%)、「大型店舗を誘致する」(5.5%)が比較的多く選択されています。逆に選択率が低い項目は「家事の支援制度を充実する」(1.0%)、「農業基盤を充実する」(1.2%)、農村環境を充実する(1.4%)となっています。

○地区別に見ると、田代、角田、三増の各地区で「病院などの医療施設を整備する」が例外的に高くなっているほか、三増地区では「重要な方策」で選択率の高かった「公共交通（路線バス・循環バス）を充実する」が、こちらの質問でも比較的多く選択されているのが目立ちます。

■表Ⅱ-3-17 充足していると考えられる方策について（全町）

（複数回答）

項目	回答数	比率
1 山の自然を保全する	69	5.8%
2 街中の緑を保全する	61	5.1%
3 河川などの水辺を保全する	55	4.6%
4 空気が汚れないように規制する	22	1.8%
5 幹線道路を整備する	42	3.5%
6 生活関連道路を整備する	49	4.1%
7 交通安全対策を充実する	18	1.5%
8 公共交通（路線バス・循環バス）を充実する	49	4.1%
9 農地を保全する	29	2.4%
10 農業基盤を充実する	14	1.2%
11 農村環境を充実する	17	1.4%
12 地場産業を育成する	24	2.0%
13 既存工場の拡張などを支援する	23	1.9%
14 製造業を中心とする工場を誘致する	28	2.4%
15 流通施設を誘致する	46	3.9%
16 企業（就業の場）を誘致する	29	2.4%
17 中心商店街を活性化する	45	3.8%
18 大型店舗を誘致する	66	5.5%
19 娯楽施設を多くする	27	2.3%
20 観光産業を育成する	21	1.8%
21 現在の住宅地を再整備する	23	1.9%
22 新しい住宅地を整備する	34	2.9%
23 教育施設を充実する	22	1.8%
24 下水道を充実する	67	5.6%
25 公園・広場を充実する	68	5.7%
26 スポーツ施設を充実する	57	4.8%
27 文化施設を充実する	21	1.8%
28 病院などの医療施設を整備する	73	6.2%
29 子育て支援を充実する	34	2.9%
30 家事の支援制度を充実する	12	1.0%
31 福祉施設を充実する	38	3.2%
32 その他	8	0.7%
合計（3項目選択）	1,191	100.0%

■表Ⅱ-3-18 充足していると考えられる方策について（地区別比率）

（複数回答）

項目	半原	田代	角田	三増	中津・ 棚沢・ 八菅山	春日台
1 山の自然を保全する	6.8%	4.1%	6.0%	7.3%	6.0%	4.3%
2 街中の緑を保全する	7.2%	1.0%	4.8%	3.7%	5.5%	4.3%
3 河川などの水辺を保全する	5.8%	4.1%	2.4%	3.7%	5.1%	2.9%
4 空気が汚れないように規制する	2.4%	2.0%	2.4%	0.0%	1.3%	3.6%
5 幹線道路を整備する	3.9%	1.0%	2.4%	1.9%	3.3%	7.3%
6 生活関連道路を整備する	3.9%	4.1%	3.6%	3.7%	4.7%	2.2%
7 交通安全対策を充実する	0.5%	2.0%	0.0%	3.7%	2.0%	0.7%
8 公共交通（路線バス・循環バス）を充実する	4.4%	4.1%	3.6%	5.6%	3.9%	4.3%
9 農地を保全する	2.9%	3.1%	1.2%	0.0%	2.9%	0.7%
10 農業基盤を充実する	1.5%	0.0%	0.0%	3.7%	1.1%	1.4%
11 農村環境を充実する	2.4%	1.0%	2.4%	1.9%	1.3%	0.0%
12 地場産業を育成する	1.9%	4.1%	0.0%	3.7%	2.1%	0.7%
13 既存工場の拡張などを支援する	1.5%	2.0%	1.2%	1.9%	2.5%	0.7%
14 製造業を中心とする工場を誘致する	1.0%	2.0%	3.6%	0.0%	3.1%	1.4%
15 流通施設を誘致する	0.5%	1.0%	4.8%	0.0%	4.9%	7.3%
16 企業（就業の場）を誘致する	4.9%	1.0%	1.2%	3.7%	2.1%	1.4%
17 中心商店街を活性化する	2.9%	5.1%	1.2%	1.9%	4.6%	2.9%
18 大型店舗を誘致する	3.4%	5.1%	7.4%	7.4%	5.6%	7.3%
19 娯楽施設を多くする	2.4%	2.0%	3.6%	1.9%	2.1%	2.2%
20 観光産業を育成する	1.9%	2.0%	6.0%	0.0%	1.1%	2.2%
21 現在の住宅地を再整備する	1.9%	3.1%	0.0%	0.0%	1.8%	3.6%
22 新しい住宅地を整備する	2.4%	2.0%	1.2%	3.7%	3.4%	2.2%
23 教育施設を充実する	1.5%	2.0%	2.4%	0.0%	2.1%	1.4%
24 下水道を充実する	5.3%	9.3%	3.6%	3.7%	5.1%	8.1%
25 公園・広場を充実する	4.9%	6.1%	3.6%	7.3%	5.4%	8.1%
26 スポーツ施設を充実する	7.3%	5.2%	4.8%	5.6%	4.1%	3.6%
27 文化施設を充実する	2.9%	1.0%	6.0%	0.0%	1.5%	0.0%
28 病院などの医療施設を整備する	4.4%	11.3%	9.8%	11.1%	4.9%	6.6%
29 子育て支援を充実する	3.4%	5.2%	6.0%	1.9%	2.0%	2.9%
30 家事の支援制度を充実する	0.5%	1.0%	0.0%	0.0%	1.3%	1.4%
31 福祉施設を充実する	2.9%	2.0%	3.6%	7.3%	2.9%	3.6%
32 その他	0.5%	1.0%	1.2%	3.7%	0.3%	0.7%

10%～

【まちづくりのルールを決め方について】

○まちづくりのルールを決め方については、「地区の人たちの考えによりルールを作るかどうか決めたほうが良い」（45.6%）が半数近くを占める一方、「個人の権利を制限することになるので、ルールを作らないほうが良い」（6.6%）は1割にも満たず、何らかの形でルールを定めることを考える割合が高いという結果になっています。

○地区別に見ると、角田地区と三増地区で「積極的にルールを作ったほうが良い」の割合が他の地区に比べて低くなっていますが、これらの地区で特に「個人の権利を制限することになるので、ルールを作らないほうが良い」と考える人の割合が高いという傾向はありません。

■表Ⅱ-3-19 まちづくりのルールを決め方について（全町）

項目	回答数	比率
1 積極的にルールを作ったほうが良い	137	23.8%
2 地区の人たちの考えによりルールを作るかどうか決めたほうが良い	263	45.6%
3 個人の権利を制限することになるので、ルールを作らないほうが良い	38	6.6%
4 わからない	123	21.4%
5 その他	15	2.6%
合計	576	100.0%

20～30%

30%～

■表Ⅱ-3-20 まちづくりのルールを決め方について（地区別比率）

項目	半原	田代	角田	三増	中津・棚沢・八菅山	春日台
1 積極的にルールを作ったほうが良い	24.3%	26.2%	14.3%	13.6%	24.3%	28.4%
2 地区の人たちの考えによりルールを作るかどうか決めたほうが良い	38.8%	49.9%	52.4%	63.7%	44.7%	49.2%
3 個人の権利を制限することになるので、ルールを作らないほうが良い	6.8%	4.8%	7.1%	4.5%	7.4%	3.0%
4 わからない	28.2%	16.7%	21.4%	18.2%	20.9%	16.4%
5 その他	1.9%	2.4%	4.8%	0.0%	2.7%	3.0%

10～20%

20～30%

30%～

⑤交通対策について

○住民生活の利便性のため必要な交通対策としては、「鉄道の誘致」(29.9%)が最も高く、「高齢者や障害者、児童・生徒が安全に歩行することのできる歩道の整備」(22.9%)と「公共交通(路線バス・循環バス)の充実」(19.8%)が続きます。公共交通を利用した、徒歩で生活しやすいまちづくりを望む声が高い結果となっています。一方、道路整備関係の選択率は低くなっています。

○地区別に見ても、全ての地区で「鉄道の誘致」が最多となっており、鉄道の開通を望む方が多いことが分かります。「公共交通(路線バス・循環バス)の充実」は半原、田代、春日台の各地区で高く、その他の地区では「高齢者や障害者、児童・生徒が安全に歩行することのできる歩道の整備」が2番目に多く選択されています。

■表Ⅱ-3-21 利便性向上のために必要な交通対策について(全町)

(複数回答)

項目	回答数	比率
1 通学路や家のまわりの生活道路の整備	105	9.3%
2 町内の離れた場所や近隣市町村へ行くための幹線道路の整備	68	6.0%
3 高齢者や障害者、児童・生徒が安全に歩行することのできる歩道の整備	257	22.9%
4 安心して散策やサイクリングを楽しむことのできる散策路や自転車専用道路の整備	103	9.2%
5 公共交通(路線バス・循環バス)の充実	222	19.8%
6 鉄道の誘致	336	29.9%
7 その他	33	2.9%
合計(2項目選択)	1,124	100.0%

10~20%

20%~

■表Ⅱ-3-22 利便性向上のために必要な交通対策について(地区別比率)

(複数回答)

項目	半原	田代	角田	三増	中津・ 棚沢・ 八菅山	春日台
1 通学路や家のまわりの生活道路の整備	8.5%	10.1%	10.2%	8.9%	10.3%	4.7%
2 町内の離れた場所や近隣市町村へ行くための幹線道路の整備	6.2%	5.1%	9.1%	11.1%	6.1%	6.3%
3 高齢者や障害者、児童・生徒が安全に歩行することのできる歩道の整備	20.9%	21.5%	19.3%	22.2%	24.2%	22.0%
4 安心して散策やサイクリングを楽しむことのできる散策路や自転車専用道路の整備	8.5%	6.3%	13.6%	13.3%	9.1%	7.9%
5 公共交通(路線バス・循環バス)の充実	26.1%	26.6%	13.6%	13.3%	17.2%	22.0%
6 鉄道の誘致	28.4%	27.9%	27.4%	29.0%	29.9%	34.7%
7 その他	1.4%	2.5%	6.8%	2.2%	3.2%	2.4%

10~20%

20~30%

30%~

⑥防災対策について

- 今後必要となる防災対策としては、「避難場所や必要最小限の避難するための道路を中心とした防災対策を進める」（41.7%）と「建物の耐震補強・耐火性の向上を進め、災害時でも倒壊・焼失しにくいまちづくりを進める」（34.4%）が多く、「壁面後退のルール等（地区計画など）を決めて、道路の幅を広げる」（16.8%）がこれに続きます。一方、「戸建て住宅を共同住宅に建替えて、敷地の一部を広場や道路として利用できるよう促進する」の選択率は低くなっています。
- 地区別に見ると、どの地区もほぼ同じ傾向を示しますが、三増地区のみ、「戸建て住宅を共同住宅に建替えて、敷地の一部を広場や道路として利用できるよう促進する」を選択する割合が高くなっています。

■表Ⅱ-3-23 今後必要となる防災対策について（全町）

項目	回答数	比率
1 避難場所や必要最小限の避難するための道路を中心とした防災対策を進める	231	41.7%
2 建物の耐震補強・耐火性の向上を進め、災害時でも倒壊・焼失しにくいまちづくりを進める	190	34.4%
3 戸建て住宅を共同住宅に建替えて、敷地の一部を広場や道路として利用できるよう促進する	23	4.2%
4 壁面後退のルール等（地区計画など）を決めて、道路の幅を広げる	93	16.8%
5 その他	16	2.9%
合計	553	100.0%

10～20%

30%～

■表Ⅱ-3-24 今後必要となる防災対策について（地区別比率）

項目	半原	田代	角田	三増	中津・棚沢・八菅山	春日台
1 避難場所や必要最小限の避難するための道路を中心とした防災対策を進める	49.0%	38.8%	34.9%	34.8%	41.0%	44.6%
2 建物の耐震補強・耐火性の向上を進め、災害時でも倒壊・焼失しにくいまちづくりを進める	28.6%	41.7%	41.8%	30.4%	35.0%	30.8%
3 戸建て住宅を共同住宅に建替えて、敷地の一部を広場や道路として利用できるよう促進する	6.1%	5.6%	2.3%	17.4%	3.1%	1.5%
4 壁面後退のルール等（地区計画など）を決めて、道路の幅を広げる	14.3%	11.1%	16.3%	17.4%	17.8%	20.0%
5 その他	2.0%	2.8%	4.7%	0.0%	3.1%	3.1%

10～20%

20～30%

30%～

⑦少子化対策について

○少子化対策として必要な施策は「育児をしながら働くことのできる制度及び環境の充実」(37.4%)と「出産や育児後の就職希望者に対する再就職支援」(25.3%)が多く、育児と生活の両立が重要な課題として認識されていることが分かります。

「小児医療体制や周産期医療体制の充実」(16.5%)がこれに続きます。一方、「ファミリー向け賃貸住宅の斡旋や町営住宅への優先入居などの住居対策」(8.9%)と「子どものための建築物や公共交通(路線バス・循環バス)などにおけるバリアフリーの促進」(8.0%)の選択率は低くなっています。

○地区別に見ると、どの地区もほぼ同じ傾向を示しますが、三増地区のみ、「ファミリー向け賃貸住宅の斡旋や町営住宅への優先入居などの住居対策」を選択する割合が高くなっているほか、半原地区で「子どものための建築物や公共交通(路線バス・循環バス)などにおけるバリアフリーの促進」の選択割合がやや高くなっています。

■表Ⅱ-3-25 少子化対策として必要な施策について(全町)

項目	(複数回答)	
	回答数	比率
1 育児をしながら働くことのできる制度及び環境の充実	376	37.4%
2 出産や育児後の就職希望者に対する再就職支援	255	25.3%
3 小児医療体制や周産期医療体制の充実	166	16.5%
4 ファミリー向け賃貸住宅の斡旋や町営住宅への優先入居などの住居対策	90	8.9%
5 子どものための建築物や公共交通(路線バス・循環バス)などにおけるバリアフリーの促進	80	8.0%
6 その他	39	3.9%
合計(2項目選択)	1,006	100.0%

10~20%	20~30%	30%~
--------	--------	------

■表Ⅱ-3-26 少子化対策として必要な施策について(地区別比率)

項目	(複数回答)					
	半原	田代	角田	三増	中津・棚沢・八菅山	春日台
1 育児をしながら働くことのできる制度及び環境の充実	34.6%	33.7%	33.3%	32.6%	38.7%	40.2%
2 出産や育児後の就職希望者に対する再就職支援	24.9%	23.0%	30.9%	30.2%	26.2%	21.4%
3 小児医療体制や周産期医療体制の充実	17.3%	21.6%	13.6%	11.6%	15.4%	20.5%
4 ファミリー向け賃貸住宅の斡旋や町営住宅への優先入居などの住居対策	8.6%	8.1%	6.2%	16.3%	9.3%	7.7%
5 子どものための建築物や公共交通(路線バス・循環バス)などにおけるバリアフリーの促進	10.8%	9.5%	7.4%	9.3%	6.9%	6.8%
6 その他	3.8%	4.1%	8.6%	0.0%	3.5%	3.4%

10~20%	20~30%	30%~
--------	--------	------

⑧高齢化対策について

○高齢化対策として必要な施策は「在宅介護・相互地域扶助のための拠点・システムの整備」(32.3%)と「歩道等における段差解消・歩道幅の確保」(26.0%)が多く、次いで「住宅のバリアフリー化のための公的支援の充実」(18.1%)と、在宅介護の考えが一般化する中で、高齢者に優しいまちづくりが求められています。「低床バス・リフトつきバスの導入の促進」(7.1%)の選択率が低くなっていますが、これは既に低床バスの導入が進んでいる結果と考えられます。

○地区別に見ると、どの地区もほぼ同じ傾向を示しますが、三増地区で「住宅のバリアフリー化のための公的支援の充実」を選択する割合がやや高くなっているほか、春日台地区で「低床バス・リフトつきバスの導入の促進」の選択割合がやや高くなっています。

■表Ⅱ-3-27 高齢化対策として必要な施策について（全町）

（複数選択）

項目	回答数	比率
1 公共施設及び施設周辺におけるバリアフリー化	135	12.4%
2 低床バス・リフトつきバスの導入の促進	77	7.1%
3 歩道等における段差解消・歩道幅の確保	283	26.0%
4 在宅介護・相互地域扶助のための拠点・システムの導入	352	32.3%
5 住宅のバリアフリー化のための公的支援の充実	197	18.1%
6 その他	45	4.1%
合計（2項目選択）	1,089	100.0%

10～20%

20～30%

30%～

■表Ⅱ-3-28 高齢化対策として必要な施策について（地区別比率）

（複数選択）

項目	半原	田代	角田	三増	中津・棚沢・八菅山	春日台
1 公共施設及び施設周辺におけるバリアフリー化	10.7%	19.7%	12.6%	13.3%	10.8%	16.2%
2 低床バス・リフトつきバスの導入の促進	8.6%	7.9%	6.9%	8.9%	6.3%	10.8%
3 歩道等における段差解消・歩道幅の確保	24.9%	25.0%	24.1%	26.7%	26.9%	24.6%
4 在宅介護・相互地域扶助のための拠点・システムの導入	30.9%	26.4%	31.1%	31.1%	33.2%	33.0%
5 住宅のバリアフリー化のための公的支援の充実	19.3%	18.4%	18.4%	20.0%	18.8%	12.3%
6 その他	5.6%	2.6%	6.9%	0.0%	4.0%	3.1%

10～20%

20～30%

30%～

⑨公園・緑地等の整備について

○公園・緑地等の整備としては、「誰もが楽しめる身近な広場や公園の整備」(24.6%)が最も多く、「災害時の避難場所となる大きな公園の整備」(19.0%)、「ジョギングや散歩が楽しめる緑道の整備」(18.3%)及び「水や動植物に親しむことのできる、自然に近い形の公園・緑地の整備」(17.9%)がこれに続きます。普段の生活で利用可能な公園が求められているとともに、災害時の避難場所としての活用も期待されています。

○地区別に見ると、半原地区以外の全ての地区で「誰もが楽しめる身近な広場や公園の整備」が最も多く、田代地区は「水や動植物に親しむことのできる、自然に近い形の公園・緑地の整備」が2番目になっています。角田、中津・棚沢・八菅山の両地区は「災害時の避難場所となる大きな公園の整備」が2番目に多く、三増地区では「水や動植物に親しむことのできる、自然に近い形の公園・緑地の整備」と「災害時の避難場所となる大きな公園の整備」が同数で2番目となっています。春日台地区は、「ジョギングや散歩が楽しめる緑道の整備」が2番目に多く、半原地区では「ジョギングや散歩が楽しめる緑道の整備」が最も多く、以下、「災害時の避難場所となる大きな公園の整備」、「誰もが楽しめる身近な広場や公園の整備」と続きます。

■表Ⅱ-3-29 公園に必要な施設について（全町）

（複数選択）

項目	回答数	比率
1 誰もが楽しめる身近な広場や公園の整備	271	24.6%
2 スポーツが楽しめる公園の整備	66	6.0%
3 災害時の避難場所となる大きな公園の整備	209	19.0%
4 水や動植物に親しむことのできる、自然に近い形の公園・緑地の整備	197	17.9%
5 ジョギングや散歩が楽しめる緑道の整備	202	18.3%
6 商店街などで、人が集まりくつろげる広場の整備	125	11.3%
7 その他	32	2.9%
合計（2項目選択）	1,102	100.0%

10～20%

20%～

■表Ⅱ-3-30 公園に必要な施設について（地区別比率）

（複数選択）

項目	半原	田代	角田	三増	中津・棚沢・八菅山	春日台
1 誰もが楽しめる身近な広場や公園の整備	20.1%	27.0%	26.7%	23.9%	24.7%	27.8%
2 スポーツが楽しめる公園の整備	7.8%	4.1%	5.8%	6.5%	5.9%	7.5%
3 災害時の避難場所となる大きな公園の整備	20.6%	13.5%	23.3%	19.6%	19.8%	12.8%
4 水や動植物に親しむことのできる、自然に近い形の公園・緑地の整備	18.6%	23.0%	17.4%	19.6%	16.6%	18.0%
5 ジョギングや散歩が楽しめる緑道の整備	22.1%	13.5%	16.3%	17.4%	17.3%	21.1%
6 商店街などで、人が集まりくつろげる広場の整備	8.3%	16.2%	7.0%	13.0%	13.2%	6.8%
7 その他	2.5%	2.7%	3.5%	0.0%	2.5%	6.0%

10～20%

20%～

本町は、昭和41年の県内陸工業団地の完成に伴い、関連産業の立地や人口増加などの波及効果をもたらし、その後も、県央愛川ハイテク研究所団地の整備などにより都市的発展を遂げてきました。平成8年以降は、社会・経済情勢の低迷とあわせて人口も減少傾向の状況にあります。

このような状況の中、今後の少子・高齢社会の進展や地域格差の増大などに対し、健全な都市経営を維持することが求められることから、都市の安定・成熟化に向けたまちづくりをいかに実践していくかが基本的な課題となります。

したがって、本町においては、新たに供用が開始されたさがみ縦貫道路や宮ヶ瀬湖周辺など広域的開発効果を融合させながら、本町のもつ良好な自然環境をいかし、都市の安定・成熟化を支える産業の育成や安全で安心できる居住環境づくり・地域活性化、交通環境の整備を基軸としたまちづくりが重要です。

(1) 自然環境の保全を軸とした課題

Ⅱ

本町の空間構造は、仏果山・経ヶ岳・八菅山などの山並み、河岸段丘、水田などの“みどり”と、中津川・相模川の“水”によって構成されています。この「みどりと水」の自然を単に保全しようということではなく、自然の有する価値を積極的に活用することにより、良好な自然として保全していくことが重要です。

①みどりの保全

みどりの保全のためには、風致地区・自然環境保全地域に指定するなどの法的規制に加え、みどりの有する価値を積極的に取り込むなどの都市整備を進めていくことが課題となります。

圃場整備された水田や畑地は、今後とも保全を推進するとともに、農業従事者の高齢化や後継者不足により増加傾向の遊休荒廃農地は、農業経営の維持と担い手確保の方策を創出し、農村景観の維持をはかっていくことも課題です。

また、みどりの有する価値を町民や地権者が認識していくための施設としては、自然学習の場・森林浴・ハイキング・キャンプ場などの整備が課題となります。

②水辺環境の保全

本町には、近年年間
120万人前後の観
光客が訪れ、大半は中
津川・相模川の水辺を
楽しんでいく人達で
す。平成21年に県立
あいかわ公園が全面
開園して以降、来園客
数は順調に増加して
おり、自然を楽しみ、
本町のよさを理解さ



中津川・河原の風景

れる機会も増加しています。一方、観光客の増加は、ゴミの増大・車の渋滞・水質の悪化などの影響も大きくなります。

このような状況の中で、中津川などの水辺環境の保全をはかっていくためには、自然とのつきあい方・楽しみ方を誘導するとともに、親水公園や駐車場などの施設整備も課題となります。また、中津川の水辺を親水空間としてデザインしていくことや受益者の費用負担の問題などソフト面の検討も重要となります。

(2) 役場庁舎周辺地区の課題

平成8年3月の愛川町都市マスタープラン策定段階においては、「役場庁舎周辺地区」を含む街区（約38ha）を「核づくり地区」として位置づけ、商業・業務・行政施設及び住宅を一体的に整備し、町の中心地を形成する整備構想がもたれていましたが、バブル経済が崩壊した後、長らく社会・経済情勢が低迷している中で、大規模な土地区画整理事業の推進は困難となり、地元地権者等の意向を踏まえると事業進捗は見込めない状況となりました。

しかし、本町の地理的・交通的中心にある「役場庁舎周辺地区」には、町役場・文化会館・病院などの行政・文化・厚生機能が集積しており、町民の生活支援・交流の場としての中心的役割とともに、少子・高齢社会への対応や都市の安定・成熟化に向けた取り組みが期待されていることから、現在の機能集積をいかし、施設の更新等とあわせながら、少子・高齢社会に対応した町民の生活利便性を高めるための機能強化を推進することが課題となります。

(3) 都市の安定・成熟化を支える産業基盤づくりの課題

①産業の受け皿整備

本町は、これまで県内陸工業団地や大塚下、小沢上原周辺の工業地の整備などに取り組み、主に生産系を中心とする産業施設の立地を進めてきました。

しかし、近年は、国際競争の激化や国内消費の低迷を背景に、生産系施設の海外移転や工場の集約化などが進み、本町からも生産系施設の撤退が相次ぎ、その跡地にさがみ縦貫道路等の広域幹線道路の開通を踏まえた流通系施設の立地が進んでいます。この結果、本町の産業構造は、大きく変化しています。

このような状況の中、今後とも健全な都市経営をはかっていくためには、安定的な人口維持や町財政の安定が必要であり、そのため生産系を含めた産業の活性化をはかることが必要となります。

本町の工業系用途地域内には、未利用地があまり残されていないことから、これら未利用地を活用するほか、新たな産業の受け皿の整備が必要不可欠となります。

今後の産業の受け皿としては、本町の土地条件から見ると、県内陸工業団地のような大規模団地は考えられず、周辺環境と調和した中・小規模団地、既存市街地内の未利用地や空き工場などを活用し、施設需要に応じて整備していくことが課題となります。

②幹線道路網の整備

道路整備は、産業基盤づくりの一つの課題ですが、広域幹線としてのさがみ縦貫道路の開通により、東京都心部及び横浜市・八王子市などとの連携をはかり、町における産業の拠点性を高めていくためには、さがみ縦貫道路に対応した幹線道路網の整備が課題となります。

また、年間160万人が訪れる宮ヶ瀬湖周辺へ観光客をスムーズに導くため、さがみ縦貫道路相模原愛川ICから国道412号を結ぶアクセス道路整備及び国道412号の拡幅整備が重要です。

都市計画道路については、自動車専用道路であるさがみ縦貫道路（相模原愛川ICから高尾山IC）が、平成26年6月28日に供用が開始されました。その他の7路線は、二の域桜台線及び相模原大磯線の2路線が整備済みとなっていますが、それ以外の5路線については整備完了に至っておらず、整備率は約68%となっています。

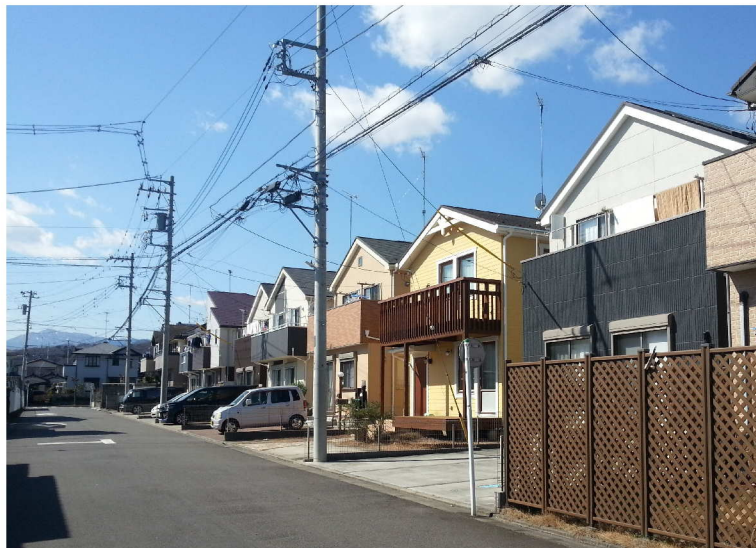
都市計画道路は、市街地の骨格軸としての性格を有し、また、厚木市、相模原市などの近隣市町村を結ぶ広域的な道路としての役割を果たしているため、早期完成が課題となっています。

(4) 市街地、既存集落の環境整備、活性化に係わる課題

①中津地域等の市街地の居住環境整備

中津地域等の市街地では、昭和41年以降に急速に市街化が進んだことから、生活道路の幅員が狭い、小規模公園等の都市施設も不十分な状況となっています。今後、道路・公園の整備、良好な景観誘導などの居住環境づくりを積極的に進め、市街地の再生をはかっていくことは、まちづくりの重要な課題の一つです。

こうした市街地における居住環境整備は、住宅、商店・学校などの生活利便施設、公園・緑地などのオープンスペース及び道路といった要素が複雑にからんでおり、その対応には息の長い時間を要しますが、将来のまちづくりに向けてはその方向を提示していく必要があります。



春日台地区の住宅地

②半原・田代地域の市街地の活性化

半原・田代地域などの市街地では、主要産業であった繊維産業の構造的な不況状態が続いています。そこで宮ヶ瀬湖周辺整備などによる集客効果を活用し、地域の活性化をはかるまちづくりが重要な課題です。

この地域は、“糸のまち”として近代工業とともに歩んできたまちですが、将来的には、新たな都市型産業（観光産業等）を受け入れていくことも必要であると考えられます。

しかし、現在は、繊維産業を保全・育成するため特別工業地区が指定されていることから、他の産業立地が制約されています。したがって、今後、特別工業地区としての産業地のあり方が課題となります。

③市街化区域内農地・未利用地の有効活用

平成24年度愛川町都市計画基礎調査によると、市街化区域内の農地・未利用地（傾斜地山林を除く）は約180haあり、これらの土地を土地区画整理事業や地区計画※等により、良好な住宅地として計画的に整備・誘導していくことは、まちづくりの取り組むべき重要な課題です。

また、小規模な開発行為においても、まちなみを整え、共同空間などに緑を多くすることによって、生活の豊かさを演出するなど、良質な都市ストック※として次世代に継承できるまちを目指し、いかに誘導をはかっていくかが課題となります。

④既存集落・農地等の環境整備

本町の市街化調整区域では、全町人口の約1割強の人々が幹線道路の沿道や農地の外周部に広がる集落で生活を営んでいます。これらの既存集落においては、市街地に比べて生活に不便な面があることから、良好な生活環境の整備が課題となります。

また、本町の特色をいかし、緑豊かな自然環境の中で暮らしたいとする田園居住ニーズへの対応も課題となります。

優良農地においては、農業の後継者不足等の要因から農地が遊休化・荒廃化するなどによって、土地利用上の問題が起こり始めています。これらの問題を解決するためには、優良農地の保全・活用を誘導する仕組みづくりが課題となります。



三増地内の農地

※地区計画：住民の生活に結びついた地区を単位として、建物の用途や建ぺい率、容積率、高さ、道路、公園などの配置等について、地区の特性に応じてきめ細かく定め、良好なまちづくりを進める計画のことです。

※都市ストック：これまで整備・蓄積されてきた、道路・公園・下水道等の都市基盤施設と、居住・商業・工業機能等の都市機能のことです。

(5) 本町の利便性・快適性・安全性等を高める交通環境の整備に係わる課題

本町には鉄道がなく、町民の交通手段はマイカーが中心となっています。しかし、移動に制約を受ける学生や高齢者などは、公共交通であるバス（路線バス・町内循環バス）やタクシーに頼らざるを得ない状況にあります。また、交通安全施設などの整備を順次進めていますが、さらに交通安全対策を充実する必要があります。

高齢化の進展や環境問題への対応、安全・安心への意識の高まりなど、今後の社会情勢の変化に伴い、交通環境においても、安全性の確保、利便性の向上、環境負荷の低減などが求められています。このような状況を踏まえると、以下のような課題が考えられます。

①安全安心に移動できる交通環境の改善

歩道が狭い箇所や、歩道の切り下げによる段差等があるため、歩行者や自転車利用者には安全でないと感じられています。また、樹木が繁茂して道路の見通しが悪くなっている箇所もあり、交通安全や防犯の面から、適切な維持管理が必要となっています。

②主要な公共交通であるバス交通の利便性の向上

自家用車の複数台所有の一般化やライフスタイルの変化等に伴い、路線バスの利用者は減少傾向が続いていることから、路線の廃止・縮小を招く悪循環となっており、本町では、路線バスの運賃、運行頻度、乗り継ぎに関する利便性について、町民にとっても満足 of いくサービスとなっていないのが現状です。

特に、既存鉄道駅等への定時性・速達性の向上が課題となります。

③地区や目的によって異なる交通ニーズへの対応

町と隣接市等とを連絡する道路には、朝夕を中心に激しい渋滞が発生するポイントが点在しており、速達性を妨げる要因となっています。また、幹線道路における渋滞は、バスの定時性・速達性を損なう要因となっています。

町民の移動実態から見ると、日常の買い物等は町内が中心ですが、通勤・通学や日常以外の買い物、レジャーなどは町外への移動も多く、目的によって移動の傾向が異なっていることから、行動目的や居住地によって異なる交通ニーズを把握し、これらを的確に対応する道路網の整備などの交通施策を進める必要があります。

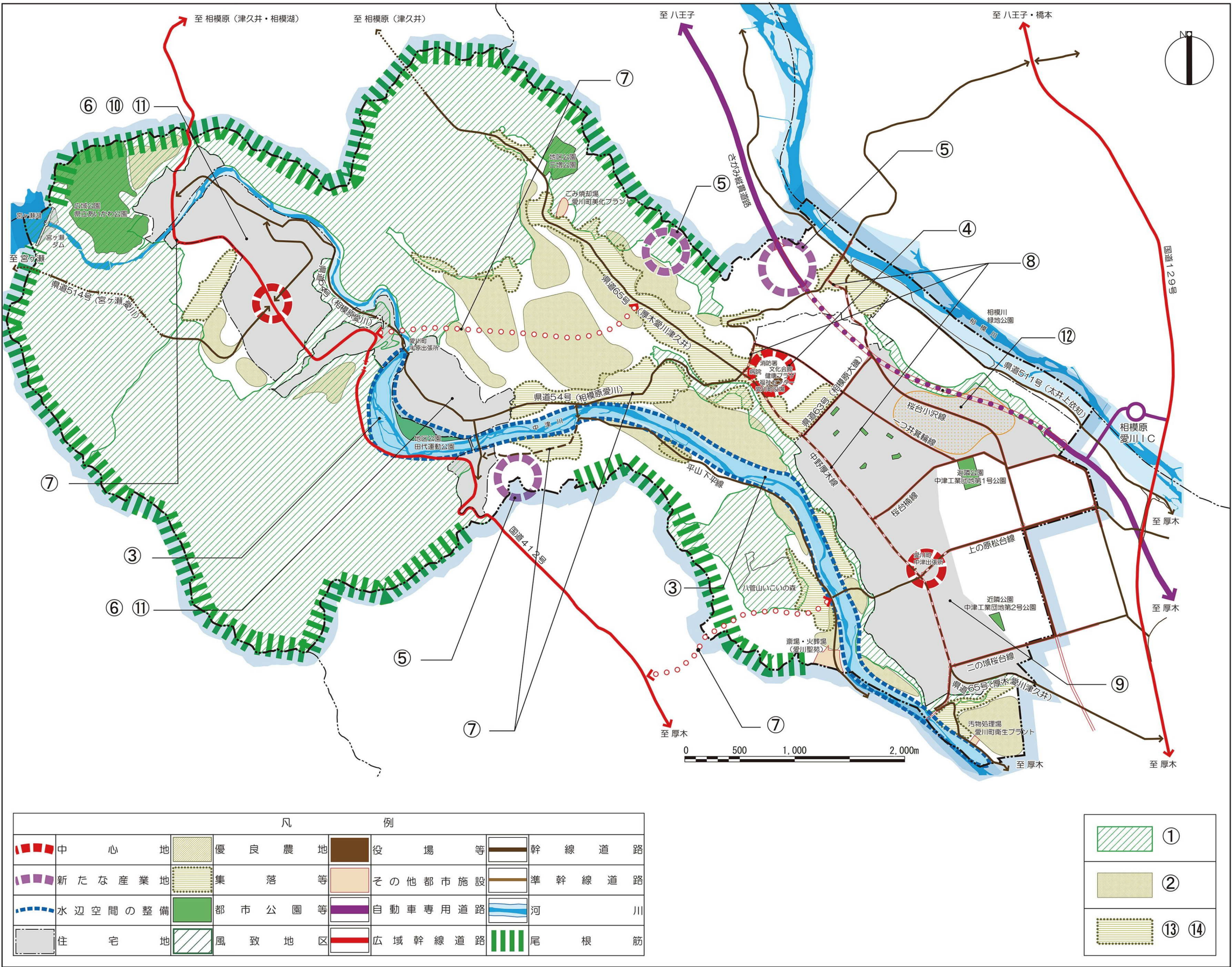
④鉄道の誘致推進

本町には鉄道がないため、主な公共交通は路線バスが担っていますが、路線バスは道路状況によって遅延することも多く、鉄道駅までの定時制・速達性の向上が求められています。

したがって、広域的な交通ネットワークの形成及び交通利便性の向上をはかるため、小田急多摩線の愛川・厚木方面への延伸が実現するよう、住民団体、近隣市村などと連携し、実現に向けた取り組みを進める必要があります。



■図Ⅱ-4-1 都市整備課題図



■表Ⅱ-4-1 都市整備課題総括表

(1) 自然環境の保全を軸とした課題	①	〇みどりの保全・活用
	②	〇優良農地の保全・活用
	③	〇中津川をいかした親水空間づくり
		〇自然学習の場・森林浴・ハイキング・キャンプ場などの整備 〇自然とのつきあい方・楽しみ方の誘導 〇親水公園や駐車場などの施設整備 〇水辺の利用に伴う受益者の費用負担
(2) 役場庁舎周辺地区の見直し課題	④	〇役場庁舎周辺地区における現在の機能集積をいかし、施設の更新等とあわせた生活利便性を高めるための機能強化 〇交通ターミナル機能の強化
(3) 都市の安定・成熟化を支える産業基盤づくりの課題	⑤	〇新たな産業の受け皿づくり
	⑥	〇伝統産業の維持や都市型産業受入れと市街地環境の整備
	⑦	〇相模原愛川ICから国道412号を結ぶアクセス道路整備及び国道412号の拡幅整備
	⑧	〇都市計画道路の整備促進（さがみ縦貫道路に対応した幹線道路網の整備） 〇周辺環境と調和した中・小規模団地、既存市街地内の未利用地や空き工場などを活用し、施設需要に応じた整備
(4) 市街地、既存集落の環境整備、活性化に係わる課題	⑨	〇道路・公園の整備等、良好な居住環境づくりに向けた市街地の再生
	⑩	〇宮ヶ瀬湖周辺整備などによる集客効果を活用し、地域の活性化をはかるまちづくり
	⑪	〇特別工業地区としての産業地のあり方
	⑫	〇まとまった未利用地が混在している住宅地における良好な住宅地の整備・誘導
	⑬	〇既存集落の良好な生活環境づくり
	⑭	〇緑豊かな自然環境での暮らしを希望する田園居住ニーズへの対応
		〇小規模な開発行為においても、良質な都市ストックとなるような誘導
(5) 本町の利便性・快適性・安全性等を高める交通環境の整備に係わる課題		〇狭い歩道や舗装の段差の解消、樹木等により見通しが悪い道路の適切な維持管理
		〇既存鉄道駅等へのバス路線の強化
		〇広域的な交通ネットワークの形成及び小田急多摩線の愛川・厚木方面への延伸の実現